神戸市会議員 北区選出 3期 （発行）自由民主党神戸市会議員団 神戸市中央区加納町6丁目5-1 電話 078-322-5846

坊（ぼう）やすなが『市政ニュース』

平成26年新年号

有馬温泉の湯の安定供給について

Q 坊やすなが議員（外郭団体に関する特別委員会）

過去の経験やデータがあるにもかかわらず何か月も泉源が止まるのは

有馬温泉において泉源の維持管理と温泉の安定供給が大命題だと思います。

現状では2～3年に1度どこかの泉源が止まり、何カ月も改修工事が行われることが常態化しております。これまで何十年もの経験や蓄積したデータがあるにもかかわらず、このような状況が続いていることは果たして委託している企業として如何なものでしょうか。

A 山本産業振興局観光コンベンション部長

地元に迷惑かからないように有馬温泉企業と協議をしたい

泉源は揚湯管という管でくみ上げております。時間が経つにつれてその管の中に温泉の成分が付着し、温泉が湧出する量も減少し最終的には止まります。

市有泉源である極楽泉源を含む4つの泉源の維持管理を有馬温泉企業に委託しております。定期的な配管の交換、洗浄に加えまして、泉源自体に不具合の兆候が見られましたら随時報告をいただくようになってございます。

極楽泉源では近い将来出なくなる可能性もあるという報告も受けましたので、平成 25 年度の予算で改修工事の要求、工事の設計、経理入札の事務手続上、工事に着手するまで2～3カ月かかるということで進めておりましたが、実際泉源が自噴を停止したため各旅館について御迷惑をかけた次第でございます。地元の皆さんに迷惑がかからないように有馬温泉企業と協議をしたいと思います。

有馬温泉（ブランド）ついて

Q 坊やすなが議員（外郭団体に関する特別委員会）

有馬温泉（ブランド）に傷がつくということになりかねないのでは

妬（うわなり）泉源から御所泉源への連絡管の視察を行った際、泉源の接続部分で事故のリスクがあるのではとの疑問を持ちました。万が一の事を考えると有馬温泉（ブランド）に傷がつくということになりかねないのでその点どのように考えておられますか。

また、炭酸泉は非常に浅いところから湧出しており道路工事を行うだけで影響があるようですけれども今後どのようにお考えなのかお聞かせください。

A 山本産業振興局観光コンベンション部長

有馬温泉（ブランド）を守り、より売り出したい

泉源の接続部分での事故のリスクがあるということでございますので、もう少しその辺をよく見ましてどういうことができるのか、予算審議をお願いしないといけませんのでよく検討させていただきます。

炭酸泉のことにつきましては、2年間にわたりまして、地元と一緒になりまして、有馬のまちづくり計画（マスタープラン）をつくりました。その中に泉源の保護というのも明記され、有馬の財産であるということになっています。地元の皆さんとどういう形でやっていくのがいいのか協議を進めて参ります。

また、有馬温泉ブランドについては、ブランドを守りより売り出したいと考えています。

外国人学校の助成について

Q 坊やすなが議員 （総務財政委員会）

「拉致問題解決」の集会を主催し片方では北朝鮮の外国人学校に助成という状況は

北朝鮮に関連する諸々に対する政策、予算について質問します。国際ルールを守って常識的に国を運営されている国の方々と、力づくでも他国に影響を与えながら核兵器開発を行う国の方々に対して同じように支援するということで予算措置がなされています。

基本的に朝鮮人は日本の学校に入学できますが、独裁政権を維持するための学校を独自に運営をしています。

神戸市は、「拉致問題解決」の集会を主催しておると言いながら、片方では金一族礼賛のための学校に助成をしているということ自体、市民からすると全く理解できないと思います。

なぜ核実験を行ったこの時期においてもまだ助成をし続けていかないといけない理由がどこにあるのかを明快にお答え下さい。

A 岸本市長室長

検証できるものに助成をする 必要に応じて現地調査も

今回の北朝鮮の核実験が行われたことについては、我々としても遺憾に思っております。

外国人学校に対する助成ですが、本来は都道府県がおこなっておりまして、神戸市はそれに上乗せする形で助成しています。現在助成を即座にやめるということはどうなのかと思っております。

今後助成につきましては、事前に計画を頂き、実際に施設の整備や備品の購入等、これに使いましたと見えるような形になるようなもので助成をするという方向に思っております。それに伴い領収書が出てくるわけですが、必要に応じて現地調査も行くというような形にかえさせていただこうと思っております。

神戸港（阪神港）の30年後を見据えて

Q 坊やすなが議員 （みなと総局）

船が来なくなるという状況が一番の不安

国際コンテナ戦略港湾に指定をされたが、コスト削減のための公設民営化の取り組みがどのように進んでいるのか、また実際に競争力を発揮できるほどコスト低減の目処がたっているのかを伺います。

また船の大型化（1万 3,000TEU）が進んでおりますが、神戸港発の荷物が増加していない現状では神戸港に入港する船が減少します。入港する船が減少することが神戸港にとって一番の不安材料になりますが、神戸市自体がこの神戸港の 10 年後、20 年後、30 年後を見据えてどう戦略を立てていくかということが非常に重要になってくると思いますが、如何お考えでしょうか。

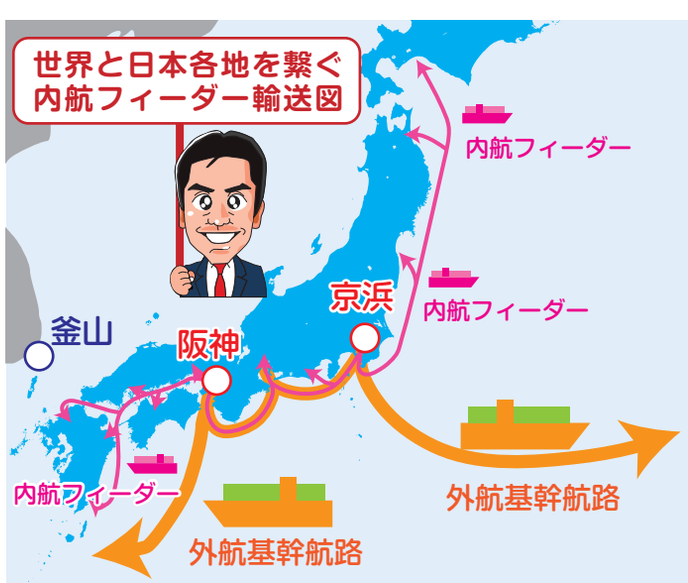
A 岡口みなと総局長

西日本の貨物を神戸港に奪還する

国際コンテナ戦略港湾についてですが、釜山港等東アジア諸港に流れております西日本の貨物を神戸港に奪還するといったことを目的といたしまして、内航フィーダーへの支援を中心とした集荷対策行っております。

また釜山港並みのターミナルコスト低減を達成するため、貸付料 50%低減の実現に向け、現在平成27年に「阪神港」として大阪市と神戸市の2社を経営統合し、阪神港の国際物流機能の強化に向けた取り組みが進められております。

神戸港の取扱貨物量については、確かに今年度は欧州危機の影響を大きく受けまして伸び悩んでおります。

また、ご指摘の通り非常に速いスピードで船の大型化進んでおりまして、ユーザーから一日も早いバースの大型化、最新鋭バース化を強く望まれているところでございます。

今後貨物の動きや船社の動きに機敏に対応いたしまして、西日本の産業、経済を支える拠点港としての役割を果たしていきたいと考えております。